

人や自然にやさしいエコガーデンをめざして

— 市民がつくる市民のための地域環境情報誌 —

エコライフみしま



祝10周年

第20号
2012/10/15

知っていますか？

市の鳥「カワセミ」市の木「イチヨウ」市の花「三島桜」



- 特集「エコライフ」
- お江戸でござる「生ごみと初物」
- 環境活動紹介(エコリーダーの地域環境活動)

エコライフの実践～地球にやさしい生活をしよう～



今年5月に行われた旧市内地区エコリーダーによる
名所めぐりエコウォーキング

クイズ：三島市と静岡県ではどちらが1人あたりのごみの出す量が多いでしょうか？
(答えはP2にあるよ！)

環境にやさしい「エコライフ」ってどんな生活？

普段の生活の中で、環境への負荷を少なくし、地球環境にやさしい生活を行うことを「エコライフ」といいます。「エコライフ」を進めるには、生活様式を省資源・省エネルギー型に変えていく必要があります。具体的には節電、節水、ごみの減量や、リサイクルなどに積極的に取り組んでいくことです。

記念すべき20号では、「エコライフみしま」という本紙のタイトルに改めて注目し、市民エコリーダーや自治会の皆さんをはじめ、本紙編集スタッフが実践しているエコライフ活動を紹介していきます。

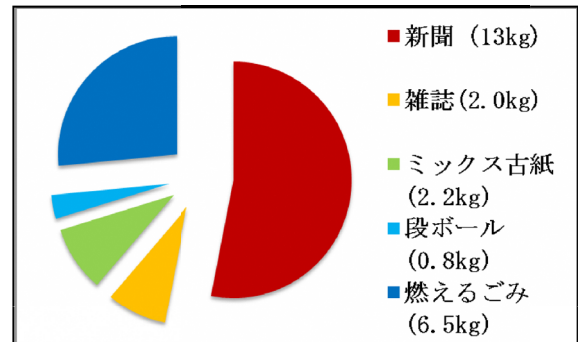
○ごみを減らす取り組み①【ごみを計量】

皆さんは、1日にどれだけのゴミを出しているか知っていますか？三島市生活環境課によると、平成22年度に市民1人が1日に出したゴミの量は1,116gで、静岡県民の平均975gと比べても多くなっています。ゴミの重さを計量し、記録をとっている本紙編集スタッフのゴミの出し方を紹介します。

- ① 生ごみは生ごみ処理機で処理し、プランターの肥料とする。
- ② 新聞、雑誌、ミックス古紙、段ボール、牛乳パックなどはスーパーや市の収集、町内などの資源回収に出す。
- ③ 残ったごみは、週2回の収集日に重さを計量してから出す。

平成13年からゴミの重さを計量し、データを記録しています。その結果、平成23年度に出した燃えるゴミの量は94.4kgでした。大人2人暮らしなので、1人1日130gということになります。

右上の円グラフは、平成24年7月に出たゴミを種類ごとに重さの割合で表したものです。リサイクルできるものを除くと、燃えるゴミとして排出しているのは全体の4分の1程度になることがわかります。ゴミを計量することで、自分が1日にどれだけのゴミを出しているのかを把握し、ゴミを減らす意識を高めてみてはいかがでしょうか。



平成24年7月のゴミの種類ごとの重さの割合

○ごみを減らす取り組み②【生ごみダイエットモニター体験】

生ごみ減量の取り組みとして、三島市生活環境課が「生ごみカラット」と呼ばれる容器を用いた生ごみ減量モニターの募集を行っていたので、本紙編集スタッフが体験しました。

方法は、水を切った生ごみを新聞紙で包み、生ごみカラットの中に入れ、風通しのよい野外に置いて乾燥させます。2~3日乾燥させると最初の状態より30%~40%ほど軽くなり、10日間乾燥させた時は80%も軽くなるなど、生ごみを減量することができました。乾燥させた生ごみは新聞紙に包んだまま燃えるゴミとして捨てます。乾燥させ水分が減れば、焼却時にかかるエネルギーを減らすことができます。

今回の体験では、生ごみの水分が多いと新聞紙から水分が染み出して臭いがしたり、野外で乾燥させるため天候に左右されることなど課題も多くありましたが、普段何気なく処理している生ごみと向き合うことで、ゴミ問題に対する意識がとても高まりました。



生ごみカラット

○ごみを減らす取り組み③【生ごみのたい肥化】

庭がある家はもちろん、ベランダなどで植物を育てている人にもおすすめしたいのが生ごみのたい肥化です。生ごみは家庭の燃えるゴミの中で半分近い重さになり、たい肥化することでかなりのゴミの減量ができますので、その方法を簡単に紹介します。

- ① 自宅のそばで落ちている枯葉や土を集める。
- ② 土のう袋や段ボールなどに落ち葉や土を入れ、米ぬかを入れて準備完了。
- ③ 生ごみは水を切ってから入れる。一度にあまり入れすぎないように注意する。



土のう袋でのたい肥化

土のう袋や段ボールを利用すればベランダなどの狭いスペースでもたい肥化を行うことができます。落ち葉や土にいる天然菌（枯草菌といいます）を利用しているの、費用もほとんどかかりません。管理に気を付ければ臭いや虫なども発生しません。

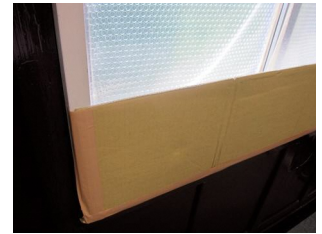
この方法で北上エコリーダーの1家庭（大人2人、小さい子ども3人の食べ残しあり）では、生ごみを1カ月で13kg、年間で150kg以上もの生ごみをたい肥化し、ごみを減量することができました。

○暮らしを支える電気【冬の節電】

冬の節電は無駄なところまで暖めず、局部暖房を心がけることが重要です。

夜更かしせず、早寝をするのも効果的な節電になります。冷え性の人は「あんか」などを使いましょう。ホットカーペットは消費電力が高いので人のいる場所だけを暖め、コタツは布団や毛布を敷いた上に置き、熱を逃がさないように工夫しましょう。エアコンは部屋全体を暖め、電気消費量が多いので、短時間で切るようにしたいですね。

日中はカーテンを開けて陽射しを部屋に入れ、夕方には雨戸を閉めて昼間の熱を逃がさないようにし、夜は窓から冷気が部屋に入り込まないようにカーテンと窓の間に段ボールを置くなどの工夫をしてみてくださいはいかがですか。



段ボールを使って
冷気の侵入を防ぎます。

○水を大切に使おう！【シャワーヘッドの交換による節水】

販売されている節水型シャワーヘッドの多くは、使用中のシャワーヘッドとの取り換えが可能で、特に工具等も必要なく10分程度で取り換えができます。

節水型シャワーヘッドは、通常のタイプより穴が小さかったり、穴の数が少なくなっています。そのため、少ない水圧でも十分な勢いでお湯がでるので（ホースの先を指で塞いで水を遠くに飛ばすときと同じですね）、気持ちよくシャワーを浴びることができます。種類にもよりますが、30%程度の節水効果があるので、お湯を沸かすための電気やガスなどの、光熱費の削減にもなります。また、低水圧でもお湯の勢いがあるため、マンションの高層階など水圧が低い家でも交換するメリットがあります。



穴が小さいタイプは、
細かく水が出ます。

《地域のリサイクル活動紹介》 ペットボトルキャップを集めています！

ペットボトルキャップのリサイクルは、その収益金の一部が世界の子どものためのワクチンの購入にあてられます。大社町自治会では、このリサイクル活動に協力し、ペットボトルキャップの回収を行っています。自治会長の福尾一隆さんに活動の思いをお聞きしました。

「ごみとして捨てられているキャップを自治会事業の一環として集めています。既に36kg、数にして約15,000個を集め、地元の東小児童会に届けました。燃えるごみを減らし、資源として再生し、収益金をワクチンに代えるこの一石三鳥の『キャップ集め』をもっと多くの自治会、団体に取り組んでもらいたいと願っています。回収容器は大型のペットボトルを再利用したもので、最初のごみを捨てられたりもしましたが、現在はそのようなこともなくなり、地域の人に少しずつ活動が理解されてきました」とのことでした。



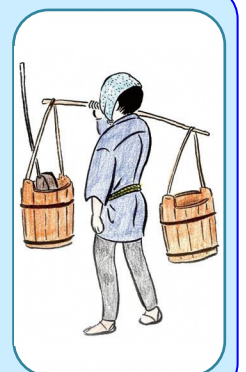
左：回収したキャップと自治会の方々
右：回収容器の写真



お江戸でござる～生ごみと初物～

何でもリサイクルをしていた江戸時代、生ごみはたい肥として使われました。通常の肥料としてはもちろん、なんとビニールハウスの役割も果たしたのです。魚河岸から出る魚の切り落としや、家庭からでた生ごみを地面に埋めて、油紙をかぶせます。生ごみが発酵するときの熱は55～70度にもなるため、この熱を利用して野菜の成長を促進させたというわけです。江戸っ子は初物が大好き。縁起が良い、と競って野菜を早く収穫しました。値段が高騰するほどの初物に対する熱狂ぶりに、幕府も困るほどでした。

江戸時代の農業技術には驚かされますが、初物を食べたい江戸っ子のこだわりにも驚きですね。





旧市内地区エコリーダー活動の紹介



旧市内地区のエコリーダーは、定例活動として毎月第2土曜日に環境パトロール（ごみ拾い）を行っています。そのうち、年に数回は、「三島市ふるさとガイドの会」の皆さんの案内で旧市内地区にある名所・旧跡を訪ねながら環境パトロールを行う「名所めぐりエコウォーキング」を開催しています。地元の小学生にも参加していただいたり、地域に関するクイズを行いながら、街中の“護美”のためにみんなで楽しくエコウォーキングをしています。

今回は最近の「名所めぐりエコウォーキング」のルートや参加者の感想を紹介します。

東 部 地 区

2012年1月14日(土)



三嶋大社→ムラカミ屋→祐泉寺
→法華寺→妻塚→エコセンター
(旧三島測候所)→遠州屋染店
→間眠神社→笠縫橋→言成地蔵
→陣屋址・市役所

中 部 地 区

2012年5月12日(土)



田町駅→福聚院→日本キリスト
教団三島教会→奈良橋親子地蔵
→田福寺跡→法華寺→祐泉寺→
すじかい橋→ムラカミ屋→陣屋
稲荷・代官所跡・市役所

西 部 地 区

2012年9月8日(土)



三石神社→阿闍梨小路・市子石
→木町観音堂→林光寺→秋葉神
社→千貫樋→栄町墓地公園→伊
豆国分寺→本覚寺→蓮馨寺

ガイドは「三島市ふるさと
ガイドの会」の皆さんです！

参加者の感想

- ◆ 新しい発見が多くあり嬉しかった。◆ コンビニや踏切付近にごみが集中していた。
- ◆ 三島の歴史を知ることができた。◆ ごみが意外と少ないことに驚いた。◆ 新しい友達が出来た。など



* 次回の名所めぐりエコウォーキングは2013年1月12日(土)です。
旧市内東部地区をめぐる予定です！【午前9時三嶋大社鳥居前集合】
皆さんの参加をお待ちしています！お子さんの参加も大歓迎！

皆さんも地域での環境活動に参加しませんか。お問い合わせは下記、環境政策課へ。

【編集後記】

特集「エコライフ」いかがでしたか？「あつ、家でもやっている！」「ほかにもこんなものがあるよ！」など、各家庭でそれぞれのやり方があると思います。

「エコライフ」は実践することに意味があります。小さなことでも大勢の人が取り組めば大きな成果になります。まだ実践されていない人は何か始めてみませんか？何事も、習慣になってしまうと面倒くさくないんですよ。(ひ)

編集スタッフ（市民ボランティア）

飯田喜一・岩田明彦・大村洋子・佐伯忠夫・柴原俊介・鈴木祥子
堀江紗代・渡邊芳昭・川村結里子・青木博

<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/>（広報みしまと一緒に掲載中）

第20号（5月・10月の年2回発行）
平成24年10月15日発行
〒411-8666 静岡県三島市中央町5-5
三島市役所中央町別館
環境政策課内
「エコライフみしま」編集事務局
TEL:055-983-2647
FAX:055-976-8728
E-mail:kankyou@city.mishima.shizuoka.jp

古紙配合再生紙を使用しています。
この再生紙も、さらに再生可能な資源古紙です。